

黄色い欠片の大切さ

浜田市立旭中学校 三年 竹田風沙

「ナイス！」

それは私が、小学校の低学年のときの通学路で、ある黄色い欠片を蹴って遊んでいたときに言った言葉でした。

その黄色の欠片とは、その通学路にある点字ブロックの欠片でした。その頃の通学路にあった点字ブロックは年季が入っていたのもあり、とてもボロボロになってしまっていました。

私が小学生だったときは、多くの人がその黄色い欠片で遊んでいたのも、そのころの私は、やっではいけないことだと認識していませんでした。それどころか、私が小学校の低学年のときは楽しいとしか思っていませんでした。しかし、今はその行為をしたことをとても後悔しています。また、その点字ブロックは、今は新しくなっていて、それは私たちがボロボロにしたせい、ということもあると思うので、今は申し訳なく思っています。

私が中学二年生のとき、網膜色素変性症という、国の指定難病にかかってしまった方の講演会がありました。そこで、その方の視界はどうなっているのかということを知って私はとても驚きました。視界の真ん中が見えていなかったからです。私は日常の生活もとても大変なのだろうなと思いました。

そして、その後に、私の友達が、前が見えにくくなるというサングラスをかけて、点字ブロックと白杖を頼りに実際に歩いてみるという体験を行っていました。そこでの友達は、歩くのはとてもゆっくりで、特に友達が頼りにしていたのは点字ブロックでした。その体験が終わった友達は、「点字ブロックがないと物にぶつかってしまうので点字ブロックはとても大切だと思った。」と言っていました。

今まで私は、点字ブロックは目が見えにくい人にとって大切なものと分かっていたつもりでした。しかし、私はそこで初めて、点字ブロックは私たちの視覚と同じくらい、とても大切なものだったと気付いたのです。

その講演会の次の日、私は実際に通学路の点字ブロックの上を、目をつぶって歩いてみました。すると歩く方向は点字ブロックのおかげでなんとなく分かりましたが、怖くて数歩しか歩くことができませんでした。そして、すぐに目を開けてしまいました。ましてや、点字ブロックがなかったら……と考えるととても恐ろしく、小学校の時の私は、本当にはいけないことをしたのだなと改めて分かりました。

小学校の頃の私たちが点字ブロックをボロボロにしたせいで、いつもとは違う、おかしい凹凸があり、転んでしまった人もいたかもしれません。また、点字ブロックの欠片に惑わされ、間違えた方向に行ってしまう、危うく事故につながりかけたという人もいるかもしれません。もし、本当に事故が起きていたら取り返しのつかないことになっていました。それほど、私たちのしたことは、してはいけないことでした。

今の日本にも視覚障害者の方は、二〇一六年の時点で、三十一万人はおられ、多くの方が、点字ブロックを必要としています。それほど大切な点字ブロックですが、今も点字ブロックの上に自転車や荷物などを置く人はいるそうです。

私が、もし視覚障がい者で、歩きたい点字ブロックの上に自転車などが置かれていたら、まず、何が置かれているかということを確認するのも時間がかかると思います。それに、点字ブロックの上から、自転車をどかすのもとても大変で、自転車がどのようになっているのか分からなくて、手を挟み、けがをしてしまうかもしれません。点字ブロックがあれば行きたいところにも行けるのに、自転車などが置かれているために、行きたいところにも行けなくなるかもしれません。

また、点字ブロックの上に荷物が置かれていたら、視覚障がい者の方にとってそれが障がいとなるし、視覚障がい者の方の楽しみや幸せを奪うことになってしまいます。だから、私たちは点字ブロックの上には絶対に自転車や荷物などを置いてはいけないし、ましてや、遊ぶなんてことは絶対にしてはいけないのです。

私は、これからもし、点字ブロックの上に荷物が置かれていたりしたら、自分から移動したりして、いろいろな特性を持っているすべての人が、心地よく過ごせるような社会を作っていきたいです。